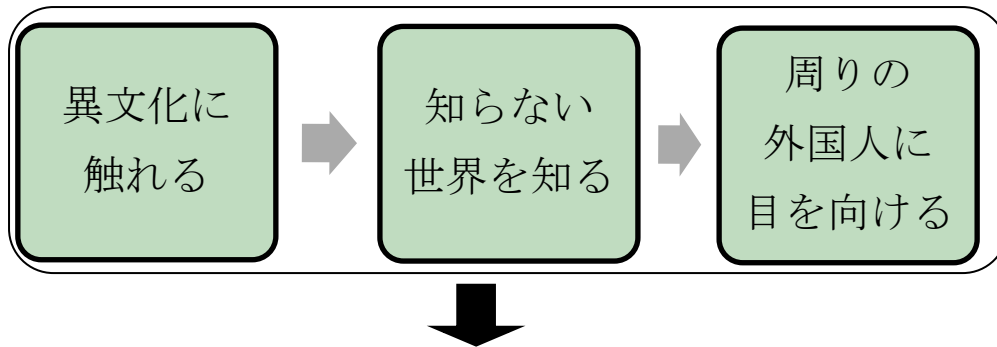


多文化共生ワークショップ

2013 年度代表 新村 奏代

○ 活動目的

- ・ 世界には様々な文化があることに気づき、異文化理解をしてもらう
- ・ 子どもたちの興味を広げる
- ・ 自文化を見直すきっかけをつくる



普段から多文化共生について考えてもらいたい

○ できた経緯

2011 年度の 4 年生のアイデアからはじまったプロジェクト
毎年、有志学生にバトンがつながり、2013 年度は 3 年目

○ 活動内容

- ・ 週 1 回のミーティングで情報共有
- ・ 校内ワークショップの実施
〔ワークショップ・ファシリテーターについての勉強を兼ねながら、
まずはワークショップを体験する〕
- ・ 小グループを作り、その班でワークの案を考える
- ・ ワークのリハーサル、最終確認
- ・ 小学校でワークショップ本番
(例年、市内の 2 校でそれぞれ 2 時限分ずつ実施)
- ・ ワークの振り返り、次のワークショップへの課題探し

(今年度も上記の流れで進めていく予定)

○ 昨年度ワーク内容 テーマ：「音楽」から異文化を体感する

〈世界の歌〉

- ・誰もが耳にしたことのある音楽の発祥が、日本なのか海外なのか当てるクイズ
【日本の童謡から日本の童謡にゆかりのある国について知り、世界に目を向ける】
⇒ 海外が発祥の曲は、原曲や、日本以外の国でも歌われていることなどを紹介

〈世界の国歌〉

- ・世界の国歌をいくつか聞いてもらい、どこの国のものかを予想するクイズ
【今まで知らなかった各国のイメージに気づく】
⇒ 各国歌の歌詞の意味も説明

〈世界の踊り〉

- ・海外の踊りの映像を見てもらい、どこの地域の踊りかを予想するクイズ
【地域ごとの踊りの違いを見つけ、世界の民族のもつ音楽の世界観を知る】
⇒ その踊りにどのような歴史や意味があるかも説明

すべてのワークにおいて、自文化を見直してもらうために日本についても取り上げた

○ 活動成果

- ・楽しかった、面白かったという感想をたくさんもらった
- ・子どもたちが持っていた“ステレオタイプ”をいい意味で覆すことができた
- ・子どもたちだけでなく学生も学ぶことが多かった
- ・大学生が教える側の立場から学校現場を見る良い機会となった
- ・小学校側から今年度も実施してほしいと声をかけていただけようになった

○ 今後の課題

- ・「楽しかった」で終わらず、この先につなげるためにはどうしたらよいか
- ・先生の力を借りずにワークをスムーズに進行させたい
- ・参加学生の規模拡大